目次

統計データの追跡.....1
統計データの追跡: イントロダクション.....1
トレース フィールドの使用.....1
現時点での統計をファイルに送付.....2
「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用.....3
統計オプション.....4
データベースのオプション.....10
DataPage+オプション.....17
ローカルDatapageの+のデータベースにデータを発送します。.....19
XMLSTATS/ONを使用した統計データのXMLファイルへの送信.....22

統計データの追跡

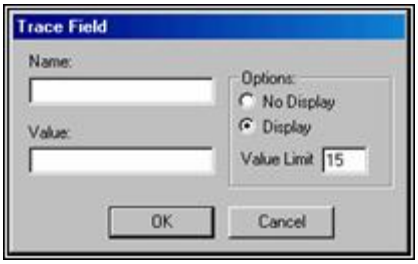
統計データの追跡: イントロダクション

PC-DMISでは、測定されたパーツの統計データを追跡、及び、管理することができます。すべての測定結果または追跡フィールドの情報は測定結果または追跡フィールド前の STATS コマンドの挿入で選択された統計ソフトウェアパッケージに発送されます。代わりに、XMLSTATS コマンドを使用すると統計データをテキストベースのXMLファイルへ送信することも可能です。

この章では、主に以下のトピックについて説明します。

- トレース フィールドの使用
- 現時点での統計をファイルに送付
- 「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用
- データをローカルDatapage+のデータベースに発送する
- 統計データのXMLファイルへの送信

トレース フィールドの使用



トレースフィールドダイアログ ボックス

「**挿入| 統計コマンド| フィールドを追跡**」メニュー・オプションは「**トレース・フィールド**」ダイアログ・ボックスを表示します。そこでは、新規のトレース・フィールドに対する値を定義し、TRACEFIELDコマンドとして編集ウィンドウにその情報を送信することができます。PC-DMISは、トレースフィールドを使用して、測定結果と一緒に、統計データベースに追加情報を送信します。実行中に、 PC-DMISは統計とトレースフィールドデータをXSTATS11.TMPという名前の一時ファイルに格納します。

名前 - トレースフィールドの名前を定義します。

値 - トレースフィールドの値を定義します。

非表示 - 実行中に**トレースフィールド**ダイアログ・ボックスを隠します。これを使用すると、 PC-DMIS式のように編集ウィンドウコード自体によるトレースフィールドをコントロールすることができます。

表示 -
オペレータが入力するか、実行中にトレースフィールドに含まれるデータを表示できるように、**トレースフィールド**ダイアログボックスを表示します。

注記:
Logo.datファイルを使用して定義しているトレースフィールドは、実行された時に印刷されません。 PC- DMISはまだそれらをXSTATS11.TMPファイルに送信します。

値の上限 -
トレースフィールド値に含む文字数の最大値を決定します。値は、最大15文字を持つことができますが、これを使用して、より小さな制限を定義することもできます。例えば、ユーザが**最大値**を5に指定する場合、オペレータは、[**値**]ボックスに最も5文字まで入力できます。

[**OK**]をクリックする場合、PC-DMISは`TRACEFIELD`コマンドを挿入します。編集ウィンドウのトレースフィールドを使用すると、トレースフィールドの名前と現在の値を変更することができます。

トレースフィールドオプションの 編集ウィンドウのコマンドラインは以下を読み込めます:

`TRACEFIELD/ DISPLAYSTATE ; フィールド名: 値`

> **DISPLAYSTATE** =
> このトグルフィールドトレースフィールドダイアログボックスが実行中に表示されるかどうかをコントロールします。このフィールドは、「表示」と「表示なし」の間で切り換えを行います。
>
> **フィールド名=** このストリングはトレース
> フィールドの名称を表示します。ここに15文字の制限があります。
>
> **値=** これはトレース
> フィールドのその時点での値を表示します。ここに15文字の制限があります。

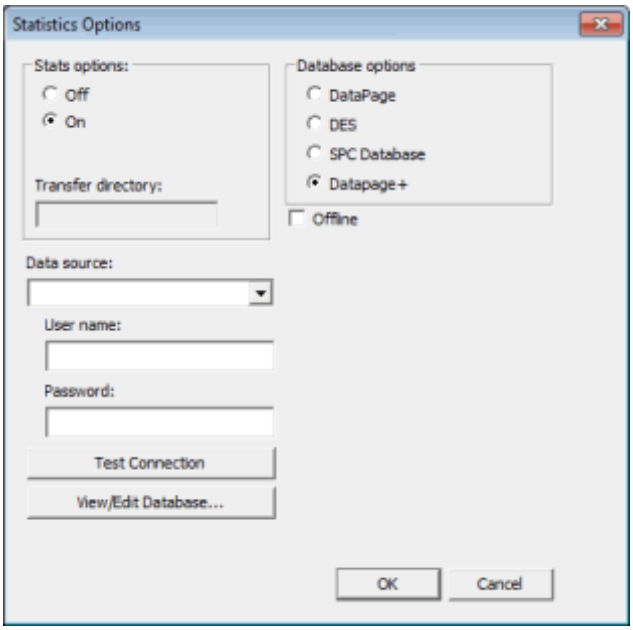
重要事項: `TRACEFIELD`コマンドは`STATS/ON` コマンドの後に配置されるべきです。

現時点での統計をファイルに送付

オペレーション | 現時点での統計をファイルに送付メニュー
オプションを選ぶと、測定ルーチンを実行せずに、データベース、または、XSTATS11.tmpファイルにデータを送ることができます。

このオプションを選ぶと、STATS/ONコマンドに続く、すべての測定結果、及び、トレースフィールドが、選択されたデータベースに直ちに送信されます。データベースが登録され、STATS/ONコマンドがマーク済みの場合にのみ、統計がデータベースに送信されます。それ以外の場合、PC-DMISは統計データをXSTATS11.tmpファイルに送信します。

「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用



統計オプション ダイアログ ボックス

挿入 | 統計コマンド | 統計 メニューオプションを選択すると **統計オプション**'ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用すると、PC-DMISにどのように測定結果を取り扱うか伝えることができます。この情報を指定の統計ソフトウェアパッケージデータベースに送信するよう伝えることができます。

統計オプション下で、**オン**を選択して**OK**をクリックすると、STATS/ONコマンドが測定ルーチンに挿入されます。STATS/ON
が目的の測定結果またはトレースフィールドコマンドの前に挿入されると、その寸法またはトレースフィールド情報は選択した統計ソフトウェアパッケージに送信されます。

ダイアログボックスの変更は、**データベースのオプション**エリアから選択されたデータベースオプションに応じます。ダイアログボックスの変更エリアについては、データベースのオプションサブトピックの説明された項目を参照してください。

統計オプション

データベースのオプション エリアは常に**統計オプション**
ダイアログボックスで利用可能です。**データベースのオプション**
エリアで、以下のコマンドを使用できます。

- オフ - 統計収集をオフ
- オン - 統計収集をオン
- 転送 - 統計ファイルを新しいディレクトリに転送
- 更新 - データベースを更新
- 記録 - 指定のデータを記録

オフ - 統計情報をオフ (STATS/OFF)

Off

オフオプションを選択すると、STATS/OFF
コマンドを挿入することで測定ルーチンから送られた統計情報が停止します。*統計オン*
オプションを選択するまで、寸法とトレースフィールドコマンドはデータベースへの統計情報を発送しません。

オン - 統計収集をオン (STATS/ON)

On

オンオプションを選ぶと、統計情報が測定ルーチンからデータベースへ送付されます。統計送付がオンの状態では、データを統計ファイルに送付し、その情報を異なるディレクトリに転送し、または、その情報をデータベース アプリケーション内に保存することが可能です。

すべてのSTATS/ON コマンドを従う測定結果と次のSTATS/OFF
コマンドの前は統計ファイルまたは次の STATS/TRANSFER、
STATS/UPDATEの実行上のデータベース、
または測定ルーチンの最後コマンドに発送されます。STATS/ONコマンドで、同じ測定ルーチン内でも、出力情報を複数のデータベースに発送します。

少なくともひとつのSTATS/ONコマンドを含む、測定ルーチンの各実行に当たって、PC-DMISは、いずれかの統計データベース
ディレクトリに、出力内容を送付するか否かを尋ねます。**セットアップ オプション**ダイアログボックス (**編集 | 優先設定 | セットアップ**)にある**寸法**タブからアクセスできる**データベース常時更新**チェックボックスの選択によって、このプロンプトを回避することが可能です。この**[寸法]**タブに関する詳細は、「優先設定」章の「設定オプション: 寸法タブ」を参照してください。

注記: データベースオプションエリアから**DataPage**を選択した場合、PC-DMISは自動的に実行可能なDPUPDATE.exeを呼び出してまたXSTATS11.tmpファイルのデータを任意の選択したDataPageのディレクトリに挿入します。DPUPDATE.exeが働くためにユーザが管理者権限でPC- DMISを実行する必要があります。

同様に**DataPage+**オプションを選択するとDPPLUSUPDATE.exeが呼び出され、その後DataImporterが呼び出されてXMLファイルをDataPage+データベースにインポートします。

ループの内側で統計をオンにすると、XSTATS11.tmpテキストファイルやXMLファイルなど、生成された統計ファイルに含まれる測定結果と要素IDの出力が若干異なります。

STATS/ONコマンドブロック用の編集ウィンドウのコマンドラインは、指定したデータベースの種類によって変化します。すべてのSTATS/ONコマンドは、最初の行は以下のように開始します。
STATS/ON,database option;

database option=
このトグルフィールドは発送される統計情報のデータベースのタイプを示します。このフィールドはDATAPAGE、DES、SPC_DATABASEまたはDATAPAGE+のいずれかの値が可能です。ここで選択した内容に応じて、残りのコマンドが変わります。

DATAPAGE オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,DATAPAGE,$
DIRECTORY=directory_name,$
READ=n1,WRITE=n2,MEMPAGES=n3,variable_name1,variable_name2,$
STATS/END
```

SPC オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,SPC_DATABASE,database_name
```

DES オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,DES,DIRECTORY=directory
```

DATAPAGE+ オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,DATAPAGE+,database_name,OFFLINE=y/n
RECORD=data_list
```

DIRECTORY=directory_name データベースオプションが DATAPAGE または DES の場合、**directory_name** の値は統計データの送り先であるデータベースディレクトリを示す文字列でなくてはなりません。複数のデータベースディレクトリがある場合、この DIRECTORY フィールドはディレクトリが追加されるたびに繰り返されます。その一つ一つが有効なデータベースディレクトリでなくてはなりません。

database_name = データベースオプションが SPC_DATABASE または DATAPAGE+ である場合は、この文字列はデータベースのデータソース名(DSN)を示します。SPCデータベースでは、この名前はコンピュータのコントロールパネルのODBCオプションで作成することができます。DATAPAGE+ データベースでは、DNS は通常 DATAPAGE+ 内部で作成されます。DSNは有効なSPCのデータベースにリンクするよう作成しなくてはなりません。

READ=n1 これは読み取りロックを示します。**n1** は読み取り中にPC-DMISがデータベースアクセスのために最大何秒待機できるかを示します。デフォルトの設定は、10秒です。このフィールドはDataPageデータベースオプションのみに使用されます。

WRITE=n2 これは書き込みロックを示します。**n2** は書き込み中にPC-DMISがデータベースアクセスのために最大何秒待機できるかを示します。デフォルトの設定は、20秒です。このフィールドはDataPageデータベースオプションのみに使用されます。

MEMPAGES=n3 これはメモリーページを示します。**n3** はデータベースを開く時、データベーステーブル用に4Kのメモリーページを保持することを示します。このオプションはパフォーマンスに影響します。入力できる最小値は4（また、デフォルト）です。このフィールドはDataPageデータベースオプションのみに使用されます。

variable_name1 =
このフィールドは変数名の設定を示します。DIMENSION_NAMEに設定されている場合、測定結果の名前が表示されます。FEATURE-NAME に設定されている場合、要素IDが表示されます。このフィールドはDataPageデータベースオプションが使用されている時のみに使用されます。

variable_name2 =
このフィールドはコントロールの計算を使用するかどうかを決定します。CONTRLCALC ON
に設定するとコントロールの計算が使用されます。CONTROLCALC OFF
に設定するとコントロールの計算は使用されません。

OFFLINE = この はい/いいえ
フィールドはオフラインオプションを使用するかどうかを決定します。「はい」に設定すると、`RECORD=`フィールドが現れ、XMLファイルに書き込む情報を指定できます。このフィールドはDataPage+データベースオプションが使用されている時のみに使用されます。

RECORD=data_list これはXMLファイルに記録するデータの内容を決定します。**data_list**
の値はALL（すべてのデータがXMLファイルに送られることを意味）、またはカンマ区切りの項目のリストのいずれかです。例えば、測定結果とヒットの情報のみを記録する必要がある場合、DIMENSION,
HITを選択します。このフィールドはDataPage+データベースオプションが使用されている時のみに使用され、`OFFLINE=はい`の場合のみに利用可能です。

DataPage+ XML の取り扱い

DataPage+ データベース名、および`OFFLINE=YES`と共に`STATS/ON`を使用する場合、生成されるXML は実行終了直後 C:\Users\Public\Documents\WAI\PC-DMIS\
ディレクトリに作成されます。*このディレクトリはバージョンに依存しません。*これにはトランザクションの日付および時間、DSN、あるいはその他の情報が含まれます。**オフライン**チェックボックスと共に記録オプションを使用すると、その他の情報を制限することができます。

いったんファイルが作成されたら、そのファイルを扱うためにdpplusupdate.exe はそのファイルを%AppData%/DataPage+/ForStatsFile ディレクトリに移動します。実行中、このDataImporter
ツールはそのディレクトリを検索しデータをDataPage+に自動的にインポートします。DataImporterの使用については、Datapage+ と共にインストールされた文書を参照してください。

XML
の名前はそれが生成された時点での現地時間に基づいています。以下の命名形式を使用します。

<YYYY><MM><dd><hh><mm><ss>.xml

<YYYY> - 年を4桁で表示

<MM> - 月を2桁で表示

<dd> - その月の日にちを2桁で表示

<hh> - 時間を24時間形式で表示

<mm> - 分

<ss> - 秒

転送 - 統計ファイルを新しいディレクトリに転送 (STATS/TRANSFER)

Transfer

転送 オプションで、測定ルーチンからの統計情報はSTATS/TRANSFER
コマンドの実行上の指定ディレクトリに転送されます。

> **注記:** このオプションは、DataPage の**自動アップデート**オプション、または **Datapage+** データベースオプションの**記録**オプションから生成された XML ファイルを用いる場合に特に便利です。「記録」を参照してください。

別のディレクトリに統計情報を転送するには：

1. **転送** オプションをクリックしてください。
2. **転送ディレクトリ**
   ボックスに、ディレクトリのディレクトリパスを統計情報ファイルを転送したいところへ入力します。

更新 - データベースを更新 (STATS/UPDATE)

Update

更新 オプションは STATS/UPDATE PC-DMISにコマンドが実行するたびに統計データベースを更新するのを指示するコマンドを作成します。統計ソフトウェア アプリケーションがインストールされ、作動している必要があります。

> **注記: セットアップ オプション**ダイアログ ボックスの**寸法**タブからの**データベース常時更新**チェックボックスで、ユーザに「今データベースを更新するか」を回避することを可能にします。PC- DMISは、パートルーチンの実行終了時に表示されているメッセージにはSTATS ON /コマンドが含まれています。「優先設定」の章の「設定オプション：寸法タブ」を参照してください。

記録 - 特定データの記録 (STATS/RECORD)

Record

オリジナルの **Datapage+**
出力は多くの情報をデータベースに送信します。これは、若干の測定ルーチンの実行を停滞させるかもしれません。若干の情報は、要求されさえしないかもしれません。

統計オプションエリアの**記録**オプションを使用すると、データ出力を非常に柔軟かつ高速に行うことができます。これを機能させるには STATS/ON
コマンドに続く必要があります。その後、以下を実行します。

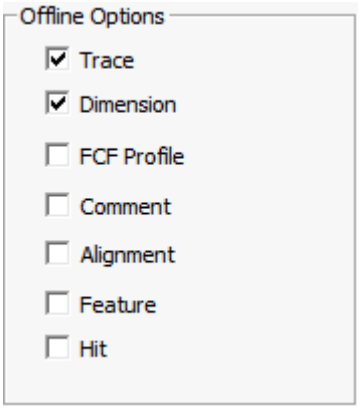
- これは、dpplusupdate.exe
  ユーティリティをバックグラウンドで実行することによってデータを送信します。これは、Datapage+
  データベースへのアクティブな接続が使用されないことを意味します。実際は、定義されたデータベースを持つ必要は全くありません。

- データを XML ファイルに書き込みます。

- STATS/ON または STATS/RECORD コマンドを編集してソフトウェアが XML
  ファイルに出力するデータを含めることで、目的のデータを取得するよう選択的にターゲットに含めることができます。これは、いかに説明する**オフライン**チェックボックスおよび**オフラインオプション**エリアを使用することで実行できます。

記録およびオフラインチェックボックスの動作方法

オフラインチェックボックスがマークされると、**オフラインオプション**エリアが編集可能になり、XML出力に記録する特定項目を選択することができます。



特に**記録**オプションを選択しない場合でも**オフライン**がマークされている場合、**OK**をクリックすると、編集ウィンドウのSTATS/ONコマンドは記録コマンドに変更され、選択されたオプションを含みます。

例えば、**オフライン**をマークし**追跡**と**測定結果**を選択した場合、コマンドは以下のようになります。

```
STATS/ON,DATAPAGE+,DATAPAGE_PLUS,OFFLINE=YES
RECORD=DIMENSION,TRACE,
```

これは、実行中、何か別のものを送信するよう指示するRECORDコマンドに当たるまで、またはSTATS/OFFコマンドに到達するまでは、PC-DMISは**測定結果**および**追跡**情報のみをXMLファイルに送信することを意味します。

ここで、ルーチンの後半で**記録**オプションを選択し、**ヒット**オプションも同様に含めたいと仮定します。コマンドは以下のようになります。

```
STATS/RECORD,DIMENSION,TRACE,HIT
```

このコマンドは`STATS/ON`コマンドの後に続く限り、XMLファイルに送るデータを制限し、追跡、測定結果、およびヒットの情報を含めます。

データベースのオプション

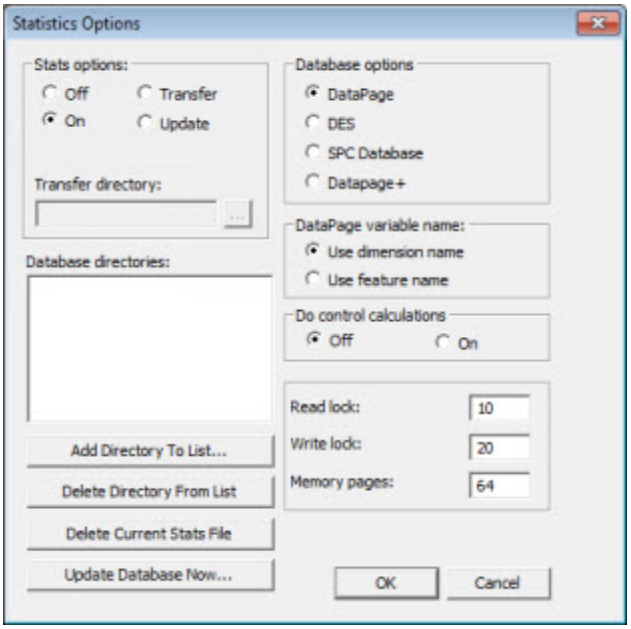
データベースオプション
エリアのオプションでは、以下の統計ソフトウェアパッケージのどれが測定情報を受け取るかを決定できます。

- DataPage
- DES
- SPCデータベース
- DataPage+

オプションを選択すると、**統計オプション**ダイアログ
ボックスがそのオプションに必要な特定情報を表示するよう変わります。

DataPage+のオプションはデフォルトのオプションです。

DataPageオプション



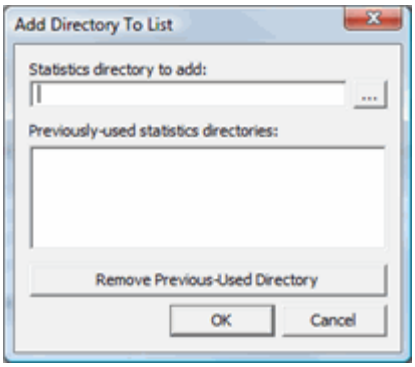
「統計オプション」ダイアログ ボックス - DataPageオプション

Datapage オプションが選択されると**統計オプション**ダイアログボックスが、以下の項目を付け加えるために変わります:

データベース ディレクトリ - この一覧は、データベースアプリケーションが存在する様々なディレクトリを表示します。この一覧にディレクトリを追加、または、削除することが可能です。`STATS/ON`コマンドひとつにつき最高で10個のディレクトリを選択し、それらに統計情報を送ることができます。

ディレクトリをリストに追加 -

DataPageで使用したいデータベースを含むディレクトリを指定できる、**ディレクトリをリストに追加**ダイアログボックスを表示します：



ディレクトリを一覧に追加

このダイアログ ボックスが表示された場合、**[追加する統計データのディレクトリ]** ボックスにデータベースを含むパスを入力でき、または [...] ボタンをクリックしてディレクトリを参照します。次に**[OK]**をクリックして、**[データベース ディレクトリ]** リストに指定されたディレクトリを添加します。

以前使用したディレクトリを削除
を利用して以前に定義されたディレクトリを削除します

リストからディレクトリを削除 -

データベースディレクトリリストから選択したディレクトリを削除します。

現在の統計ファイルを削除 - xstats11.tmp ファイルを削除します。

今すぐデータベースを更新 -

現在のデータベースから取得した統計データでデータベースアプリケーションを更新します。このボタンをクリックして、スクリーン上の手順に従って下さい。これは、データベースを更新するためにDPUPDATE.exeを使用しています。

測定ルーチンの実行が成功した後、選択されたディメンションとトレースフィールドの情報が、PC-DMISのインストール先であるディレクトリ（通常、C:\PCDMISWディレクトリ）内にある、XSTATS11.tmpという名のファイル内に保存されます。このファイル内の情報を、その後、異なるディレクトリに転送、印刷、あるいは、データベースアプリケーションに送付することが可能です。

付記: データベース アプリケーションが入手不可能な場合、PC-DMISは、XSTATS11.tmpをデータベース内にロードするための更新内容（DataPageアプリケーション用には、DPUPDATE.exe）が発見できないことを告げるメッセージを表示します。

注: DPUPDATE.exeが働くためにユーザが管理者権限でPC-

DMISを実行する必要があります。

DataPage 変数名 -
このエリアは、DataPageでエンティティを特定するために測定結果名または要素名のどちらを使用するか示します。名前の長さは最大１０文字に制限されています。測定結果名または要素名のいずれかを選ぶには、**測定結果名を使用** オプションまたは**要素名を使用**
オプションを選択して下さい。

コントロール計算を実行 -
DataPage内で行われるコントロール計算を使用するかどうかを指定するオプションが含まれます。**オン**オプションを選ぶと、公差外コントロール計算が行われます。加えて、コントロール計算を行い、データベース内にパーツ/変数、及び、公差内/外/コントロール
インジケータを設定するよう、DataPage統計更新プログラム（DPUPDATE）に命じられます。これらの計算に基づく、パーツ/変数の色付け(赤/黄/緑)を起動することにより、DataPageのモニター
モードを用いて、このデータベースを監視することができます。追加の情報については、DataPageモニター モード アプリケーションに同梱されたヘルプ
ファイルを参照して下さい。

コントロール計算の起動、作動停止を行うには、単に、**オン**
オプション、または、**オフ**
オプションを選択して下さい。デフォルト設定は**オフ**です。

読み取りロック - PC-

DMISが読み取り時にデータベースアクセスを待機する最大時間を秒で指定します。デフォルト値は10秒です。

書き込みロック - PC-

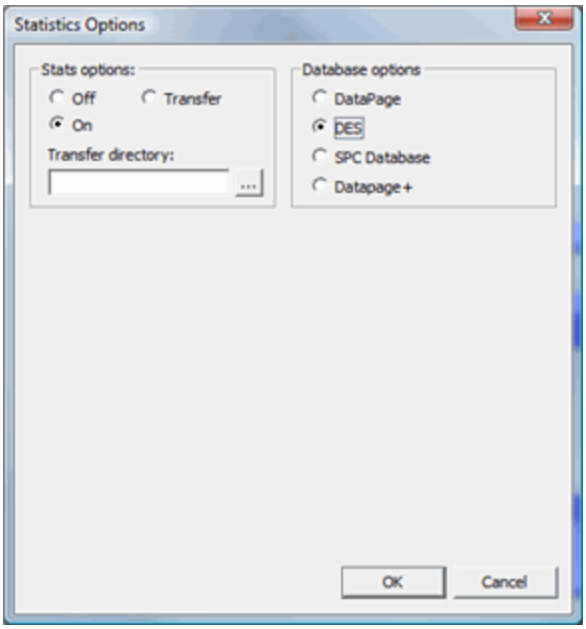
DMISが書き込み時にデータベースアクセスを待機する最大時間を秒で指定します。デフォルト値は20秒です。

メモリーページ ボックス -

データベースを開く際に、データベーステーブルを格納するために４Kページの数値を指定します。オープン可能な最小(かつデフォルト)ページ数は4です。

DESオプション

DESオプションは、統計データベース
プログラム、DES、と共に用いられる場合にのみ機能します。DESが選択されると、**統計オプション**ダイアログ ボックスが変化し、それによって、当ダイアログ
ボックスは、統計オプションエリア、データベースのオプション エリア、**OK**、及び
キャンセルコマンド ボタンのみを表示します。



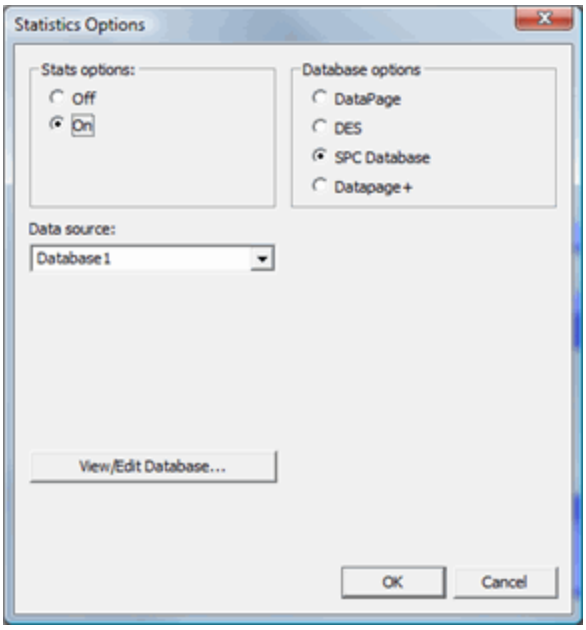
「統計オプション」ダイアログ ボックス - DESオプション

SPC データベース オプション

SPC データベースオプションはPC-DMIS自分の統計データベース プログラム、
SPCと共に用いられる場合にのみ機能します。**SPC**
データベースオプションが選択されると**統計オプション**ダイアログ
ボックスが、以下の項目を付け加えるために変わります:

- **データソース**リスト

- **データベースの閲覧/編集**ボタン



「統計オプション」ダイアログ ボックス - SPC データベースオプション

データソースリスト

このリストに定義済みのデータソースが含まれます。PC-DMIS測定結果から統計データを収集して保存するために、選択したデータソースとPC-DMISの間に接続を設定できます。

3つのデータソースを設定する方法があります。

「管理ツール」から「ODBCデータソース」を使用

データ源リストで、データ源の名前(DSN)を選択します。はじめ、DSNはコンピューターのコントロール
パネルにある、オープンデータベース接続(ODBC)オプションを用いて作成されます。

DSNを作成する必要がある場合:

1. ウィンドウ**コントロールパネル**にアクセスします。
2. （Vistaを使用した場合に、**クラシック表示**で）、**管理ツール**を選択します。
3. **ODBCデータ源**か **データ源(ODBC)**
   アイコンをダブルクリックして下さい。

4. DSNを作成するには、お客様の作動システムのヘルプファイル内の手順に従って下さい。

データベースウィザードを使用

PC-DMIS内の[ウィザード]ツールバーより、[データベースウィザード] アイコンをクリックすると、簡単にデータベースを作成できます。データベースの作成プロンプトに従うだけす。「ツール バーの使用」の章の「ウィザード ツールバー」を参照して下さい。

Datapage+内で[データベース接続プロパティ]ダイアログ ボックスを使用

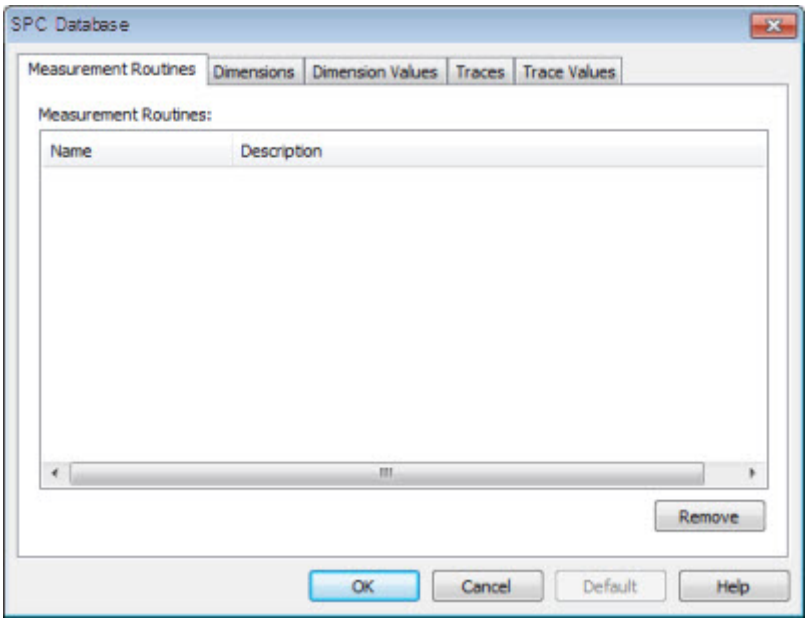
1. Datapage+から、**ツール | データベース接続**を選択します。**データベース接続のプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

2. Datapage+以内のドキュメントを利用して、ダイアログボックスに必要事項を記入てDSNを作成します。

ODBCを使用して、PC-DMISはSPC データベースに直接にデータをパスして、データもSPC データベースをサポートする統計パッケージ内でビューされます。

データベースの閲覧/編集ボタン

データソース
ボックスから選択された有効なデータソースは一旦に選択されたら、**データソース**ボタンが使用されます。Clicking this
このボタンへのクリックで、SPCデータベースのデータは**SPC データベース** ダイアログボックスのビューまたは消去されます。



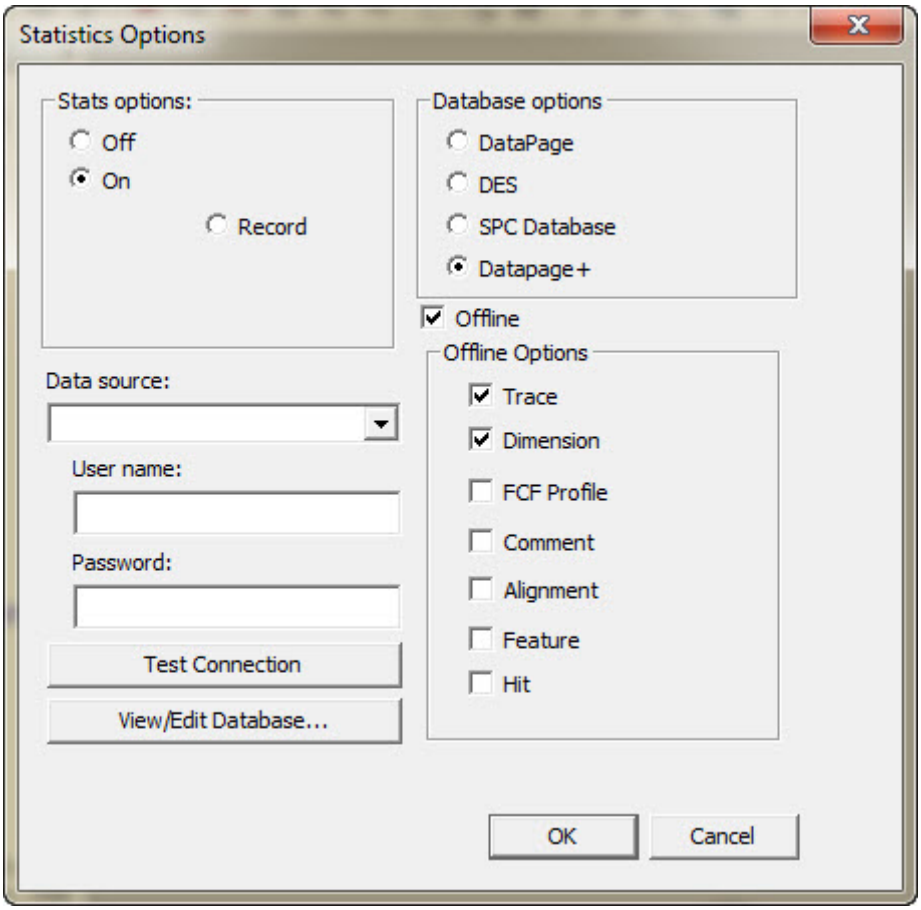
SPC データベース ダイアログ ボックス

SPCデータベースはダイアログボックスの以下のタブを使用してPC-DMIS以内にビューされます。

- 測定ルーチン
- 測定寸法
- 測定寸法値
- トレース
- 値のトレース

SPC データベースメニューオプションを使用してデータベースをビューできます。

DataPage+オプション



Statistics オプション- Datapage+ オプション

データベースのオプション ダイアログ ボックスから**Database +**
を選択した場合、**統計オプション** ダイアログ
ボックスはDatapage+で使用するデータベースに接続できるこれらのオプションを提供します：

統計オプションアリア
このオン/オフチェックボックスは統計資料が測定ルーチンからデータベースに送信することを許可か禁止します。統計オプションエリアの**記録**オプションを使用すると、データ出力を非常に柔軟かつ高速に行うことができます。、詳細については
「オフ」、「オン」と「録音」のトピックを参照してください。

データソースリスト
このリストはSPC データベース
オプショントピックに説明された**データソース**と同じように操作します。

[ユーザー名]ボックス
[ユーザー名]ボックスには、パスワード保護されたデータベースに接続するためのユーザー名を入力します。

[パスワード]ボックス
パスワードボックスには、パスワード保護されたデータベースに接続するパスワードを入力します。

テスト接続ボタン
このボタンはPC-DMIS
と指定されたデータ源の間の接続を構築することを試みます。データベースへの接続は成功になった場合、成功のメッセージが表示されます。

ビュー/編集ボタン
このボタンはSPC データベース
オプショントピックにテーブルで説明された**データベースの表示/編集**情報と同じように操作して、SPCデータベースではないデータベースは除きます。

データベースオプション領域
この領域には、測定情報を受信する統計ソフトウェアパッケージを決定します。詳細については、「データベース･オプション」を参照してください。

オフラインチェックボックス
オフラインモードでローカルDataPage+データベースにデータを送信したい場合は、このチェックボックスをオンにします。「データをローカルDatapage+のデータベースに送信する」及び「レコード」

詳細については、「ローカルDatapage+のデータベースにデータを発送する」ピックを参照してください。

ローカルDatapageの+のデータベースにデータを発送します。

PC-
DMISからDatapage+に使用されるローカルデータベースまで統計データをするには、新しいデータベースを作成する必要があります。

重要: レガシーDatapageデータベースはDatapage
+と異なるデータベース構造を使用します。したがって、彼らはDatapage
+内で使用することはできません。既存のデータ設定時に構成を続行するには、**ツール|データベースのインポート**
メニュー項目の使用でデータのダンプ（またはエクスポート）を実行してデータを新しいDatapage +データベースにインポートします。「ASCII ファイルからデータをインポート」Datapage
+のマニュアルを参照してください。

データベースを作成したら、PC-DMIS v2012 MR1 以後のを使用している場合は、STATS/ON コマンド内からのデータベースに接続できます。PC-DMIS v2012 MR1,
以前のを使用している場合は、 以下のデータ転送表を参照してください。

ステップ1: .NET Framework v3.5のインストール

データをPC-DMISに送信する前に、お使いのコンピュータシステムに .NET Framework v3.5 がインストールされている必要があります。必要な場合、以下のリンクよりインストールすることが可能です。

http://msdn.microsoft.com/en-us/netframework/default.aspx

ステップ２：新規ローカルデータベースの作成

Datapage+で新しいデータベースを使用したい場合には、Datapage+内のデータベース作成を使用する必要があります。これをするには、**Datapage+**を開始し、**ツール| データベース接続**を選択します。新しいデータベース作成の情報について、Datapage +のマニュアルを参照してください。

これは自動的にデータベースとデータソースを作成してPC-DMIS内から接続します。データベースを作成したら、以下の手順をフォローして既存のデータベースに接続します。

ステップ3: 既存のデータソースとデータベースに接続する

このステップは既存のデータソースとデータベースへ STATS/ON コマンドに接続する方法を説明します。

1. **挿入| 統計コマンド| 統計**を選択します。**統計オプション** ダイアログボックスが表示されます。

2. **データベースオプション** エリアから**Datapage+** を選択します。

3. **データソース**
   リストから、データソース名を選択します。必要な場合には、該当するボックスにユーザー名とパスワードを指定します。また、**オフライン**チェックボックスを使用することでデータをオフラインで送信することもできます。この場合、データベースと接続を確立する必要はありません。以下の「データベース接続(オフライン)を使用しないで Datapage+ 情報を送信」を参照してください。

4. **接続をテスト**をクリックします。正しくものを設定する場合には、「成功」というメッセージを取得します。

> **注記:** Datapage +で発送されるデモデータベースはビュー目的のみにします。それを使用してPC-DMISからデータを発送できません。

5. **OK** をクリックして、**統計オプション**ダイアログボックスを閉じて下さい。今、`STATS/ON` コマンドは指定したデータソースへ統計データを送信します。最後の`STATS/ON` コマンドは以下のように見えるかもしれません：

```
STATS/ON,DATAPAGE+,dpplus_database
```

これはdpplus_databaseという名前の既存データベースに接続します。

データ転送マトリックス

この表は統計データとCADデータをDatapage +データベースへ転送するべきメソッドをリストします。

PC-DMIS バージョン	STATS/ON コマンドをします	XML統計ツールを使用します	CAD
PC-DMIS v2012 MR 以後	設定済	設定済	**ファイル| エクスポート| XAML**を選択します。XMALをDatapage+へエクスポートします。
PC-DMIS v2009 とv2009 MR1	なし	設定済	**ファイル| エクスポート| XAML**を選択します。XMALをDatapage+へエクスポートします。
PC-DMIS v2009以前のバージョン	なし	設定済	PC-DMIS の.CAD ファイルをDatapage+にインポートします。

- **STATS/On コマンドの使用** -PC-DMIS v2012 MR1以後について、 PC-DMIS STATS/ONを使用してください。それは測定ルーチンの初めに に配置されるはずです。

- **XMLの統計ツールの使用** - V2012 MR1前のPC-DMISのバージョンに対しては、DataPage+がインストールされているディレクトリにあるDataPageStats.exeユーティリティを使用します。パーツのルーチンでは、このexeファイルを指していることを外部コマンドを追加します。必要に応じて、測定ルーチンの始めあるいは終わりのいずれかにコマンドを置いてください:

- 一緒にすべてのデータを受信したい場合は、パートルーチンの終了にコマンドを配置する必要があります。
- 外部コマンドの実行が終了された後、データを受信したい場合は、測定ルーチンの先頭に**-listening**パラメーターを備えたコマンドを挿入してください。詳細と例については、DataPage+のマニュアルの「DataPageStats.exeを使う」を参照してください。

DataPageStats.exeユーティリティは、各実行で統計データとxmlファイルを作成します。

次に、生成されたXMLファイルを含むディレクトリを監視し、データベースにxmlファイルからデータを引くDataPage+がインストールされているディレクトリにあるDataImporter.exe呼ばれる第二のユーティリティを使用することができます。詳細については、DataPage+ドキュメントの 「使用DataImporter.exe 」を参照してください。

より詳細な情報については、Datapage+ に同梱されている ReadMe.doc ファイル、および Datapage +ドキュメントの「XMLの統計ツール」セクションを参照してください。

データベース接続(オフライン)を使用しないで Datapage+ 情報を送信

「記録」トピックを参照してください。

XMLSTATS/ONを使用した統計データのXMLファイルへの送信

`XMLSTATS/ON`コマンドを使用することで統計データをXMLファイルへ送信することができます。これにより、統計データを簡単なテキスト形式でアクセスし、サードパーティー製のツールを使用するために手動で解析できるようになります。このコマンドはDatapage+に同梱されていたDataPageStats.exeという名の以前のXML自動エクスポートユーティリティを置き換えます。次に、Datapage+のPcdmisXMLStatsToDatabase.exeユーティリティを使用してディレクトリを監視し、.xmlファイルからデータを取出しデータベースへと送ります。この方法についてはDatapage+マニュアルを参照してください。

`XMLSTATS/ON`コマンドを挿入するには、"XMLSTATS"と入力し、次に編集ウィンドウのコマンドモードでキーボードからTABキーを押すか、[**挿入 | 統計コマンド | XML 統計**]メニュー項目を選択します。このコマンドは次の構文を持ちます:

```
XMLSTATS/<TOG1>,<Directory>
```

<TOG1> -
このフィールドはONまたはOFFのいずれかの間で切り替わり、ユーザーはこのコマンドに続く測定コマンド用に統計データをエクスポートするかどうかを選択できます。

<ディレクトリ> -
このフィールドはファイルが作成されるディレクトリのパスとして文字列(引用符なし)を取ります。デフォルトのパスは測定ルーチンが保存されているディレクトリです。

`XMLSTATS/ON`
は実行中XMLの書き込みのみ行います。指定のディレクトリへファイルを書き込み、以下の形式を使用して自動的に.xmlファイル名を生成します。

<Measurement Routine>_<Day>-<Month>-<dd>-<YYYY>_<hh>_<mm>_<ss>.XML

<測定ルーチン> - PRG拡張子のない測定ルーチン名です。

<曜日> - 測定ルーチンが実行された現地時間での曜日名です。

<月> - 測定ルーチンが実行された現地時間での月名です。

<日> - 現地時間の日を2桁で表します。

<年> - 測定ルーチンが実行された現地時間での年を4桁で表します。

< hh > - （24時間の現地時間で）測定ルーチンが実行された時間。

< mm > - （現地時間で）測定ルーチンが実行された時の分。

< ss > - （現地時間で）測定ルーチンが実行された時の秒。

すなわち、現地時間の2010年8月12日午後2時40分15秒きっかりに実行された "Test.prg" 測定ルーチンは以下のようなファイル名となります: *Test_Thursday_August-12-2010_14_40_15.XML*

XMLファイルには`XMLSTATS/ON`以降の、実行が終了するまで、または実行が`XMLSTATS/OFF`コマンドに到達するまでのすべてのコマンドが含まれています
。ファイルの書き込み中に実行が別の`XMLSTATS/ON`コマンドに到達した場合、XMLファイルには終了を意味する`</ExecutionTransaction>`タグが書き込まれ、その後次の`XMLSTATS/ON`コマンドが開始を意味するもうひとつの`<ExecutionTransaction>`タグを書き込めるようになります。

たとえば、この擬似測定ルーチンを持っていたと仮定します。

```
XMLStats/ON

Dimension1

XMLStats/OFF

Dimension2
```

```
XMLStats/ON

Dimension3
```

実行後、PC-DMISは2つの`<ExecutionTransaction>`タグのあるファイルを1つ生成します。最初のタグには以下のDimension1が含まれます:

```
<ExecutionTransaction DateTime="Sometimestamp">

    <XMLStats コマンドデータ>

    <Dimension1 データ>

</ExecutionTransaction>
```

2番目に生成されたファイルには以下のDimension3が含まれます:

```
<ExecutionTransaction DateTime="Sometimestamp">

    <XMLStats コマンドデータ>

    <Dimension3 データ>

</ExecutionTransaction>
```

XML STATS/ON は以下の点で DataPageStats.Exe と異なります。

- `XMLSTATS/ON` は DataPageStats.exe より高速です。
- DataPageStats.exe が行う出力をすべて行いますが、さらに多くの出力も含まれています。
- DataPageStats.exe を使用する際に行っていた、ルーチン終了時に外部コマンドを挿入する必要がありません。
- 必要に応じて`XMLSTATS` コマンドをオンまたはオフにすることで、XMLファイルに送信するデータを選択することができます。
- `XMLSTATS` は各`<ExecutionTransaction>`タグのペア内にタイプスタンプを追加します。さらに、上記で説明したように、ファイル名はパート名および実行時間から構成されます。